資治通鑑 第 151 巻

令和 4 年 12 月 23 日

【梁紀七】　趙柔兆敦牂，盡強圉協洽，凡二年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成．経子史部 第 9 巻 60p

高祖武皇帝七普通七年（丙午，５２６年）

■春，正月，辛丑（37-37+1=１日）朔，大赦す。

【叛乱は安州定州に拡大】

●壬子（48-37+1=１２日），魏は汝南王の**悅**を以て太尉を領せしむ。

●［安州三戍の反乱］魏の安州の石離、穴城、斛鹽の三戍の兵は反し，**杜洛周**に應じ，衆は合わせて二萬，**洛周**は松岍（一説に松［山刑］に作るべしと）より之に赴く。行台の**常景**は別將の**崔仲哲**をして軍都關（京兆昌平県、現・北京市昌平区）に屯し以て之を邀え使め，**仲哲**は戰沒し，**元譚**（北京市昌平区の居庸關に軍する事、前巻前年にあり）の軍は夜潰え，魏は別將の**李琚**を以て**譚**に代えて都督と為す。**仲哲**は，**秉**（時に燕州刺史）之子也。

●［廣陽王の深は洛陽帰還］初め，魏の廣陽王の**深**（朔州に軍す）は城陽王の**徽**之妃に通じる。**徽**は尚書令と為り，**胡太后**の信任する所と為る。會々恆州人は**深**を請いて刺史と為し，**徽**は言わく、

「**深**の心は測る可からず。」

杜洛周の反するに及び，五原の降戸の恆州（現・河北省石家荘市一帯）に在る者は**深**を奉じて主と為さんと謀り，**深**は懼れ，**(9-061p)** 上書して洛陽に還るを求める。魏は左衛將軍の**楊津**を以て**深**に代えて北道大都督と為し，**深**に詔して吏部尚書と為す。**徽**は，**長壽**（景穆の子）之孫也。

●[降戸の鮮于修禮は定州に反す、楊津は撃退]五原の降戸の**鮮于修禮**等は北鎮の流民を帥いて定州之左城（博陵の界にあり、現・衡水市周辺）に反し，改元して魯興とし，兵を引いて州城に向かい，州兵は之を御いで利あらず。**楊津**は靈丘（山西省雁門道靈丘県、現・大同市霊丘県）に至り，定州の危迫るを聞き，兵を引いて之を救い，入りて州城に據る。**修禮**は至り，**津**は出でて之を撃たんと欲し，長史の**許被**は聽さず，**津**は手劍をもて之を撃ち，**被**は走りて免かるるを得る。**津**は開門して出でて戰い，斬首すること數百，賊は退き，人心は少し安ず。詔して尋ぎて**津**を以て定州（続は安定州、北史楊播傳も同じ）刺史と為し北道の行台を兼ねしむ。魏は揚州刺史の**長孫稚**を以て大都督北討諸軍事と為し，河間王の**琛**と共に**修禮**を討たしむ。

●二月，甲戌（10-6+1=５日），北伐の衆軍は嚴を解く。

●［西部敕勒の叛乱鎮圧］魏の西部敕勒の**斛律洛陽**は桑干の西に反し，**費也頭牧子**と相い連結す。三月，甲寅（50-36+1=１５日），游擊將軍の**爾朱榮**は**洛陽**を深井に，**牧子**を河西（北河の西）に撃破す。

■夏，四月，乙酉（21-5+1=１７日），臨川の靖惠王の**宏**は卒す。

●魏は大赦す。

●［徐紇と元順の言い争い］癸巳（29-5+1=２５日），魏は侍中、車騎大將軍の城陽王の**徽**を以て儀同三司と為す。**徽**は給事黄門侍郎の**徐紇**と共に侍中の**元順**を**太后**に毀り，出でて護軍將軍、太常卿と為る。**順**は辭を西遊園に奉じ，**紇**は側に侍す，**順**は之を指さして**太后**に謂って曰く、

「此れ魏之**宰嚭**（さいひ）（呉の太宰宰嚭なり、讒言を好む、呉王は信じて之に任じ、以て國を滅ぼす、越王勾践にさらし首にされた、BC483）なり，魏國亡びざれば，此れ終に死せず！」

紇は肩を脅し而して出で，**順**は聲を抗げて之を叱りて曰く、

「爾は刀筆の小才なり，正（続は止）に幾案之用に供するに堪えるのみ，豈に應に門下を污辱し，我が彝倫（人として常に守るべき道。人倫）を敷（やぶ）るべけんや！」
因りて衣を振い而して起つ。**太后**は默然とす。
●魏の朔州の城民の**鮮于阿胡**等は城に據りて反す。
●［薊城攻防戦］**杜洛周**は南に出でて薊城（現・北京市大興区）を抄掠し，魏の**常景**は統軍の**梁仲禮**を遣わして擊ちて之を破る。丁未（43-5+1=３９日?、五月なら９日），都督の**李琚**は**洛周**と薊城之北に戰い，敗沒す。**常景**は衆を帥いて之を拒み，**洛周**は引いて上谷（現・北京市昌平区）に還る。
●［長孫稚と河間王琛は内輪もめで鮮于修禮に敗れる］**長孫稚**は行きて鄴に至り，詔して大都督を解き，河間王の**琛**を以て之に代えしむ。**稚**は上言す、
「向に**琛**と同じく淮南に在り，**琛**は敗れ（裴邃に敗れる）臣は全くし，遂に私隙を成す，今以て其の節度を受けるは難し。」
魏朝は聽さず。前みて呼沱に至る，**稚**は未だ戰うを欲せず，**琛**は從わず。**鮮于修禮**は**稚**を五鹿（続は直隷省保定道濮陽県に沙鹿城あり、或は曰く、之と別に有りとす。河南省濮陽県ではないのか?）に邀擊し，**琛**は赴いて救わず，**稚**の軍は大敗し，**稚**、**琛**は並びて坐して除名される。
●［魏主親征中止］五月，丁未（43-35+1=９日），**魏主**は下詔して將に北討せんとし，內外は戒嚴す。既に而して行かず。(9-062p)

【魏の王族間の争う、太后の優柔不断】
■●［太后は梁から元略を召す］衡州刺史の**元略**は，自ら江南に至り（149巻普通元年520年に魏を出奔），晨夕哭泣し，常に喪に居る如し。魏の**元叉**（前巻前年にあり）の死するに及び，**胡太后**は之を召さんと欲し，**略**が刁雙に因りて免るるを獲る（149巻普通元年にあり）を知り，**雙**を征して光祿大夫と為し，**江革**、**祖［口恆］之**（前巻前年に魏に没する）を遣りて南に還らしめ以て**略**を求める。**上**は禮を備えて之を遣り，寵贈すること甚だ厚し。**略**は始めて淮を濟り，魏は**略**を拜して侍中と為し，爵の義陽王を賜わる。司馬の**始賓**を以て給事中と為し，**栗法光**（屯留の人）を本縣令と為し，**刁昌**を東平太守と為し，**刁雙**を西兗州（魏の孝昌三年に定陶に置く、沛・濟陰二郡を領す、この年は二年なり）刺史と為す。凡そ**略**が過ぎる所（逃亡経路），一飧一宿皆な之を賞す。
●［廣陽王の深は鮮于修禮を討つ］魏は丞相の高陽王の**雍**を以て大司馬と為す。復た廣陽王の**深**を以て大都督と為し，**鮮于修禮**を討たしむ。章武王の**融**を左都督と為し，**裴衍**を右都督と為し，並せて**深**の節度を受けしむ。
●［徽と深の対立］**深**は其の子を以て自ら隨い，城陽王の**徽**は**太后**に言って曰く、
「廣陽王は其の愛子を攜え，兵を握りて外に在り，將に異志有らんとす。」
乃ち**融**、**衍**に敕して潛に之が為に備える。**融**、**衍**は敕を以て**深**に示し，**深**は懼れ，事は大小と無く，敢えて自ら決せず。**太后**は其の故を問わ使め，對えて曰く、
「**徽**は臣を銜（ふく）むこと骨に次（いた）り（深刻なること骨に至る），臣は疏遠にして外に在り，**徽**之臣を構えるや，為さざる所無し。**徽**が執政して以來より，臣が表請する所は，多く從允せられず。**徽**は但だ臣を害し而して已むに非ず，臣に從う將士は，勳勞有る者は皆な排抑せられ，它軍に比するを得ず，仍って**深**は憎嫉せられ，或は其の罪有るに因り，加えるに**深**の文を以て，殊死に至る，是を以て臣に從いて行く者は，悚懼せざるは莫し。臣の善を言う者有れば，之を視ること仇讎の如し。臣の惡を言う者は，之を待つこと親戚の如し。**徽**は中に居りて事を用い，朝夕臣を不測之誅に陷とさんと欲す。臣は何を以て自ら安んぜんや！**陛下**は

若し**徽**を出して外州に臨ま使めば，臣は内顧之憂い無く，庶くは以て命を賊庭に畢え，其の忠力を展べる可からん。」
太后は聽さず。
●［徽の情実政治で乱れる］**徽**は中書舍人の**鄭儼**等と更に相い阿黨し，外は柔謹に似，内は實に忌克にして，賞罰は情に任せ，魏の政は是に由りて愈々亂れる。
●戊申（44-35+1=１０日），魏の燕州刺史の**崔秉**は衆を帥いて城を棄てて定州に奔る。（去年八月より杜洛周に包囲される）
●乙丑（1+60-35+1=２７日），魏は安西將軍の**宗正珍孫**を以て都督と為し，汾州の反胡（劉蠡升）を討たしむ。
●［陳雙熾の降参］六月，魏の絳蜀（蜀人の徒りて絳郡の居る者、降蜀?。絳蜀は漢晉には河東郡に属す、元魏は絳郡を分置し東雍州に属す。山西省河東道絳県、現・運城市絳県）の**陳雙熾**は衆を聚めて反し，自ら始建王と號す。魏は假鎮西將軍の**長孫稚**を以て討蜀都督と為す。別將の河東の**薛修義**は輕騎にして**雙熾**の壘下に詣り，曉すに利害を以てし，**雙熾**は即ち降る。詔して**修義**を以て龍門（山西省河東道河津県と陝西省韓城県の間、現・運城市河津市と渭南市韓城市）鎮將と為す。(9-063p)
●［元略は胡太后の引きで徽と均し］丙子（12-4+1=９日），魏は義陽王の**略**を徙して東平王と為し，之頃（しばら）くして，大將軍、尚書令に遷り，**胡太后**の委任する所と為り，城陽王の**徽**と相い埒（ひと）し，然るに**徐**、**鄭**は事を用い，**略**も亦た敢えて違わざる也。

【葛榮と爾朱榮の自立】

●［杜洛周は范陽で負ける］**杜洛周**は都督王（都督に王号を加える等のこと数々あり）の**曹紇真**等を遣わして兵を將いて薊南を掠めしむ。秋，七月，丙午（42-34+1=９日），行台の**常景**は都督の**於榮**等を遣わして之を栗園（范陽の固安県の界にあり、京兆固安県、栗の名産地、現・河北省廊坊市固安県）に擊たしめ，大いに之を破り，**曹紇真**及び將卒三千餘級を斬る。**洛周**は衆を帥いて南に范陽（前漢は涿郡に属し、後漢の章帝は范陽郡と改める、京兆涿県、現・保定市涿州市）に趣き，**景**は**榮**等と又た之を破る。
●［鮮于阿胡は平城を落す］魏の僕射の**元纂**は行台を以て恆州（平城に治す）に鎮す。**鮮于阿胡**は朔州の流民を擁して恆州を寇し，戊申（44-34+1=１１日），平城を陷し，**纂**は冀州に奔る。
■［淮堰の復活］上は淮堰（また復活したか）の水盛んにして，壽陽城は幾んど沒すと聞き，復た郢州刺史の**元樹**等を遣わして北道より黎漿を攻め，豫州刺史の**夏侯但**等は南道より壽陽を攻めしめる。
●［葛榮は鮮于修禮の勢力を得て自立］八月，癸巳（29-3+1=２７日），賊帥の**元洪業**は**鮮于修禮**（定州反乱軍の主）を斬り，魏に降るを請う。賊黨の**葛榮**は復た**洪業**を殺して自立す。
●［爾朱榮は秀容に自立］魏の安北將軍、都督恆、朔討虜諸軍事の**爾朱榮**は肆州を過ぎ，肆州刺史の**尉慶賓**は之を忌み，城に據りて出でず。**榮**は怒り，兵を擧げて肆州を襲い，**慶賓**を執りて秀容に還る。其の從の**叔羽生**を署して刺史と為し，魏朝は制する能わず。初め，**賀拔允**及び弟の**勝**、**岳**は**元纂**に從いて恆州に在り，平城之陷ちる也，**允**の兄弟は相い失い，**岳**は**爾朱榮**に奔り，**勝**は肆州に奔る。**榮**は肆州に克つ。**勝**を得て，大いに喜びて曰く、
「卿の兄弟を得れば，天下は平らげるに足らざる也！」
以て別將と為し，軍中の大事は多く之と與に謀る。
■九月，己酉（45-33+1=１３日），鄱陽の忠烈王の**恢**は卒す。

●［葛榮は天子自称、於謹は太后に自首］葛榮は既に杜洛周之衆（從×）を得，北に瀛州に趣き，魏の廣陽の忠武王の深は交津（水經注に漳水・武安県の東を過ぎ、清水・涉県の東南より来たりてこれに注ぐ。世は決入の所を謂って交漳口と為す。河南省河北道涉県の東南合涉村、現・邯鄲市涉県）より兵を引いて之を躡（ふ）む。辛亥（47-33+1=１５日），榮は白牛邏（直隷省保定道博野県、現・河北省保定市博野県）に至り，輕騎にして章武の莊武王の融を掩撃して，之を殺す。榮は天子を自稱し，國號を齊として，改元して廣安とす。深は融の敗れるを聞き，軍を停めて進まず。侍中の元晏は太后に宣言して曰く、

「廣陽王は盤桓して進まず，坐して非望を圖る。於謹という者有り，智略は人に過ぎ，其の謀主と為り，風塵之際（兵風の世をいう）は，恐らくは陛下之純臣に非らざる也。」

太后は深く之を然りとし，詔して尚書の省門に榜し，能く謹を獲る者を募り重賞有り。謹は之を聞き，深に謂って曰く、

「今女主は臨朝し，讒佞を信用し，苟くも殿下の素心を明白にせざれば，恐らくは禍い至るに日無からん。(9-064p) 謹は請う身を束ねて闕に詣り，罪に有司に歸さん。」

遂に徑に榜下に詣り，自ら於謹と稱す。有司は以て聞す。太后は引見し，大いに怒る。謹は備（つぶさ）に深の忠款を論じ，兼ねて軍を停めるの之狀を陳じ，太后の意は解け，遂に之を捨てる。

●［元深は内輪揉めで葛榮に降り殺される］深は軍を引いて還り，定州に趣き，定州刺史の楊津も亦た深に異志有るを疑う。深は之を聞き，州南の佛寺に止まる。二日を經て，深は都督の毛謐等數人を召し，臂を交えて約と為し，危難之際は，相い拯恤（救出援助）すを期す。謐は愈々之を疑い，密に津に告げ，雲う、

「深は不軌を謀る。」

津は謐を遣わして深を討ち，深は走り出で，謐は呼噪して深を逐う。深は左右と間行して博陵（漢の武帝は博陵郡を置く、北魏では定州に属す、直隷省保定道蠡県、現・河北省保定市蠡県）の界に至り，葛榮の游騎に逢い，之を劫かして榮に詣る。賊徒は深を見，頗る喜ぶ者有り，榮は新たに立ち，之を惡み（深を盟主と為すを望む者がいるので），遂に深を殺す。城陽王の徽は深の賊に降るを誣い，其の妻子を錄す。深の府佐の宋游道は之が為に理を訴え，乃ち釋さるるを得たり。游道は，繇（西涼の李氏に事える、その後沮渠氏に事え、魏に入る）之玄孫也。

●甲申（20+60-33+1=４８日?、十月なら 20-3+1=１８日），魏の行台の常景は杜洛周を破り，其の武川王の賀拔文興等を斬り，捕虜は四百人なり。

●就德興は魏の平州（肥如に治す、直隷省津海道盧龍県、現・秦皇島市盧竜県北部）を陷とし，刺史の王買奴を殺す。

【西方も諸勢力乱立状態】

●［万俟丑奴は呂伯度・胡琛の兵を併す］天水の民の呂伯度は，本は莫折念生之黨也，後に更（顯×）に顯親（漢の光武帝は顯親侯國を置き、竇友を封じる。漢陽郡に属す。後魏は天水郡に属す。甘粛省渭川道天水県の西北、現・天水市秦安県蓮花鎮東北）に據り以て念生を拒む。已に而して勝たず，亡げて胡琛に歸し，琛は以て大都督、秦王と為し，資するに士馬を以てし，念生を擊た使む。伯度は屢々念生の軍を破り，復た顯親に據り，乃ち琛に叛き，東して魏軍を引く。念生は窘迫し，降を蕭寶寅に乞う，寶寅は行台の左丞の崔士和をして秦州に據ら使む。魏は伯度を以て涇州刺史と為し，平秦（魏の大延二年に郡を雍県に置く、岐州に属す）郡公に封じる。大都督の元修義は軍を隴口（隴坻口）に停め，久しく進まず。念生は復た反し，士和を執りて胡琛に送り，道に於いて之を殺す。之久しく，伯度は万俟丑奴（ぼくきしゅうど）の殺す所と為り，賊勢は益々盛んなり，寶寅は制する能わず。胡琛は莫折念生と交通し，破六韓拔陵に事える（前巻五年にあり）こと浸（ようや）く慢なり，拔陵は其の臣の費律を遣わして高平に至り，琛を誘い，之を斬り，丑奴は盡く其の衆を並せる。

■冬，十一月，庚辰（16+60-32+1=４５日?、十一月閏なら 16-2+1=１５日），大赦す。
■［梁の太子は丁貴嬪は卒し腰回り半減す］**丁貴嬪**は卒し，**太子**（統、丁貴嬪の子）は水漿口に入らず，**上**は（人をして）之に謂わ使めて曰く、
「毀すれども性は滅せず（孔子の孝經の言），況んや我在るを邪！」
乃ち粥を進めること數合。**太子**は體は素より肥壯にして，腰帶は十圍なり，是に至りて減削するは過半なり。

【梁は壽陽方面など攻勢を強める】

■●［夏侯但は壽陽を占領］**夏侯但**（統は夏侯亶）等の軍は魏境に入り，向かう所皆な下す。辛巳（十一月閏なら 7-2+1=６日），魏の揚州刺史の**李憲**は壽陽を以て降り，宣猛將軍の**陳慶之**は入りて其の城に據り，凡そ城を降すは五十二なり，男女七萬五千口を獲る。丁亥（十一月閏なら 23-2+1=２２日），**李憲**を縱して魏に還らしめ，復た壽陽を以て豫州と為し，(9-065p) 合肥を改めて南豫州（天監五年に豫州の治を合肥に置く）と為し，**夏侯但**を以て豫、南豫二州刺史と為す。壽陽は久しく兵革に罹り，民衆は流散し，**但**は荊を輕くし賦を薄め，農に務め役を省き，之頃して，民戸は充復す。（宋以来壽陽は豫州。裴叔業が齊に背き魏に降り、魏は揚州を置く。漢魏の揚州にならう。豫州と為すは宋齊に戻す）
●［杜洛周は范陽占領、常景は捕虜］**杜洛周**は范陽を圍み，戊戌（十一月閏なら 34-2+1=３３日?），民は魏の幽州刺史の**王延年**、行台の**常景**を執り**洛周**に送り，開門して之を納れる。（常景は屢々賊を破るも、遂に捕虜となるは、民が乱を好めばなり）
●［平原の乱平定］魏の齊州の平原（宋の武帝は平原郡を梁郡に僑置し冀州に属す。後魏に入り齊州とし東平原郡と為す）の民の**劉樹**等は反し，攻めて郡縣を陷とし，頻る州軍を敗る。刺史の**元欣**は平原の**房士達**を以て將と為し，討ちて之を平らぐ。
■●［新野の梁魏攻防戦］**曹義宗**は穰城に據りて以て新野に逼り，魏は都督の**魏承祖**及び尚書左丞、南道行台の**辛纂**を遣わして之を救う。**義宗**は戰いて利あらず，敢えて進まず。纂は，**雄**之從父の兄也。
●［人材登用して乱を防ぐべしの上疏］魏の盜賊は日々に滋く，征討は息まず，國用は耗竭し，預め六年の租調を徵し，猶ほ不足し，乃ち百官に給する所の酒肉を罷め，又た市（統にて補充）に入る者に稅する人ごとに一錢を得，及び邸店に皆な稅有り，百姓は嗟怨す。吏部郎中の**辛雄**は上疏して，以為く、
「夷夏之民は相い聚まりて亂を為す，豈に餘憾有らん哉！正に守令は其の人を得ず，百姓は其の命に堪えずを以ての故也。宜しく此の時に及びて、早く慰撫を加えるべし。但だ郡縣の選舉は，由來共に輕く，貴游俊才は，肯えて此に居るもの莫し。宜しく其の弊を改め，郡縣を分けて三等と為し，清官選補之法は，妙（くわ）しく才望を盡すべし，如し並ぶ可からざれば，地（門地）を後にし、才を先にし，拘わるに停年（崔亮が停年格を制すること 149 巻天監 18 年にあり）を以てするを得ず。三載ごとに黜陟し，職に稱う者有れば，補いて在京の名官とせん。如し守令を歴ざれば，内職と為るを得ず。則ち人々は自ら勉めるを思い，枉屈（杜屈×）申べる可く，強暴は自ら息まん矣。」
聽さず。

高祖武皇帝七大通元年（丁未，５２７年）

■春，正月，乙丑（1-1+1=１日、暦一致），尚書左僕射の**徐逸**を以て僕射（時に右僕射は欠）と為す。辛未（7-1+1=７日），上は南郊に祀す。
●甲戌（10-1+1=１０日），魏は司空の**皇甫度**を以て司徒，儀同三司と為し，**蕭寶寅**を司空と為す。
●［殷州刺史の崔楷は葛榮に殺される］魏は定、相二州の四郡を分けて殷州（ただ趙郡・鉅鹿・南鉅鹿の三郡を領す、蓋し始め置く時には相州の廣宗郡を兼ねて領す。廣阿に治す。直隷省大名道隆平県の東、現・邢台市隆堯県）を置き，北道行台の博陵の**崔楷**を以て刺史と為す。**楷**は表して稱す、
「州は今新たに立ち，尺刃斗糧，皆な未だ有らざる所なり，乞う資するに兵糧を以てすべし。」
詔して外に付して量聞（兵糧を給する量を計算して報告）せしむ，竟に給する所無し。或は**楷**に勸め，家に留まり單騎にして官に之け」
と，**楷**は曰く、
「吾は聞く、人之祿を食む者は人之憂いを憂うと，若し吾獨り往けば，(9-066p) 則ち將士誰か肯えて志を固くせん哉！」
遂に家を舉げて官に之く。**葛榮**は州城に逼り，或は勸める、
「弱小を減じて以て之を避けよ」
と，**楷**は幼子及び一女を遣りて夜出でしむ。既に而して之を悔い，曰く、
「人は謂わん、吾が心は固まらず，忠を虧き而して愛を全くする也。」
遂に命じ追い還らしむ。賊は至り，強弱は相い懸（へだた）り，又た守禦之具無し。**楷**は將士を撫勉して以て之を拒む，爭い奮せざるは莫し，皆な曰く、
「**崔公**すら尚ほ百口を惜しまず，吾が屬は何ぞ一身を愛せん！」
連戰して息まず，死者は相い枕し，終に叛志無し。辛未（7-1+1=７日），城は陷ち，**楷**は節を執りて屈せず，**榮**は之を殺し，遂に冀州を圍む。

●［關中大騒乱、蕭寶寅は窮地］魏の**蕭寶寅**は出兵して累年，將士は疲弊す。秦の賊は之を擊ち，**寶寅**は涇州に大敗し，散兵萬餘人を収め，逍遙園に屯し，東秦州刺史の**潘義淵**は汧城（秦州は既に賊の據る所となり、東秦州を隴東郡に置き、汧城に治す。陝西省關中道隴県、現・宝鶏市隴県）を以て賊に降る。**莫折念生**は進みて岐州に逼り，城人は刺史の**魏蘭根**を執りて之に應じる。豳州刺史の**畢祖暉**は戰沒し，行台の**辛深**は城（豳州城）を棄てて走り，北海王の**顥**の軍も亦た敗れる。賊帥の**胡引祖**（弘祖に作るべき）は北華州（魏の孝文帝の太和 15 年に東秦州を杏城に置く、後に改めて北華州と為し、中部敷城郡を領す。陝西省楡林道中部県、現・延安市黄陵県）に據り，**叱干麒麟**は豳州に據り以て**天生**に應じ，關中は大いに擾（みだ）れる。雍州刺史の**楊椿**は兵を募りて七千餘人を得，帥いて以て拒み守り，詔して**椿**に侍中を加え尚書右僕射を兼ねしめ，行台と為し，關西の諸將を節度せしむ。北地の功曹の**毛鴻賓**は賊を引いて渭北を抄掠し，雍州の錄事參軍の**楊侃**は兵三千を將いて之を掩擊す。**鴻賓**は懼れ，賊を討ちて自ら效さんと請い，遂に**宿勤烏過仁**を擒送。**烏過仁**なる者は，**明達**之兄の子也。**莫折天生**は勝ちに乘りて雍州を寇し，**蕭寶寅**の部將の**羊侃**は身を塹中に隱して之を射，弦に應じて而して斃れる，其の衆は遂に潰える。**侃**は，**祉**之子也。

●［路思令の軍強化策の上疏］魏の右民郎（晉の武帝は尚書右民郎を置く）の陽平の**路思令**は上疏し，以為く、
「師は出でて功有るは，將帥に在り，其の人を得れば則ち六合し掌（たなごころ）に唾（つば）して清む可し，其の人を失えば則ち三河（漢の三河の地。魏は洛陽に都し三河は畿甸なり、乃ち王城付近の地）方に戰地と為る。竊に以うに比年將帥

は寵貴の子孫多く，杯を銜み馬を躍らせ，志は逸し氣は浮き，眉を軒(あ)げ腕を攘(はら)（続は扼）い，攻戰を以て自ら許す。大敵に臨むに及びて，憂怖は懷に交わり，雄圖鋭氣は，一朝にして頓(とみ)に盡く。乃ち羸弱をして前に在りて以て寇に當り，強壯は後に居て以て身を衛ら令め，兼ねて復た器械は精ならず，進止に節無く，以て險を負う之衆に當り，數々戰う之虜に敵し，其の敗れざらんを欲し，豈に得可けん哉！是を以て兵は必ず敗れんと知り，始め集まり而して先ず逃げる。將帥は敵を畏れ，遷延し而して進まず。國家は官爵は未だ滿たずと謂い，屢々寵命を加える。復た賞賚之輕きを疑い，日々に金帛を散じる。帑藏は空竭し，民財は殫盡し，遂に賊徒をして益々甚しく，生民をして凋弊せ使め，凡そ此を以て也。夫れ德は義夫を感ず可く，恩は死士を勸む可し。今若し幽明を黜陟し (9-067p)，善惡を賞罰し，士卒を簡練し，器械を繕修し，先ず辯士を遣わして曉(さと)すに禍福を以てすれば，如し其の悛めざれば，順を以て逆を討つべし。此くの如くすれば，則ち何ぞ蕭斧（堅剛鋭利の斧）を厲ぎ而して朝菌（朝生えて晩に枯れるというキノコ。はかないもの）を伐り，洪爐（大きな炉やるつぼ）を鼓し而して毛髮を燎(や)くに異ならん哉！」
聽さず。
●戊子（24-1+1=２４日），魏は**皇甫度**を以て太尉と為す。
●［再び親征中止］己丑（25-1+1=２５日），**魏主**は四方の未だ平がざるを以て，詔して內外戒嚴し，將に親ら出でて討たんとするも，竟に亦た行かず。

■●［梁は新昌などを攻撃］譙州（梁は譙州を新昌城に治し、新昌・高塘・臨徐・南梁郡を領す。安徽省淮泗道滁県、現・滁州市南譙区）刺史の**湛僧智**は魏の東豫州を圍み，將軍の**彭群**、**王辯**は琅邪を圍み，魏は青（魏の青州は北海・樂安・渤海・高陽・河間・樂陵郡を領す）、南青（青州の南）二州に敕して琅邪を救わしむ。司州刺史の**夏侯夔**は壯武將軍の**裴之禮**等を帥いて義陽道に出で，魏の平靜、穆陵、陰山の三關を攻め，皆な之に克つ。**夔**は，**但**之弟、**之禮**は，**邃**之子也。
●［房景伯は劉簡虎を擒とす］魏の東清河郡（宋の武帝は清河郡を盤陽に僑置し冀州に属す。魏は東清河郡として齊州に属す）の山賊は群起し，詔して齊州長史の**房景伯**を以て東清河太守と為す。郡民の**劉簡虎**は嘗て**景伯**に無禮なり，家を舉げて亡げ去る。**景伯**は窮捕して，之を擒とし，其の子を署して西曹掾と為し，山賊を諭さ令む。賊は**景伯**が舊惡を念(おも)わざるを以て，皆な相い帥いて出で降る。
●［景伯の母の崔氏は明識有り］**景伯**の母の**崔氏**は，經に通じ，明識有り。貝丘（宋の武帝の置く清河郡の僑県）の婦人は其の子の不孝を列し，**景伯**は以て其の母に白し，母は曰く、
「吾は聞く、名を聞くは面を見るに如かずと，山民は未だ禮義を知らず，何の深く責めるに足らん！」
乃ち其の母を召し，之と榻(とう)（牛車の長柄の踏み台）に對して共食し，其の子をして堂下に侍立し，**景伯**が食を供するを觀使め。未だ旬日ならずして，過ちを悔い還らんことを求む。**崔氏**は曰く、
「此れ面は慚じると雖も，其の心は未だし也，且く之を置くべし。」
凡そ二十餘日，其の子は叩頭流血し，母は涕泣して還るを乞い，然る後に之を聽す，卒に孝を以て聞こゆ。**景伯**は，**法壽**（132巻宋の明帝泰始三年にあり）之族子也。
●二月，秦の賊は魏の潼關（魏の蕭寶寅が後に出ずるなり）に據る。
●庚申（56-30+1=２７日），魏の東郡（滑台に治し西兗州に属す）の民の**趙顯德**は反し，太守の**裴煙**を殺し，自ら都督と號す。
■●［成景俊は彭城攻略失敗］將軍の**成景俊**は魏の彭城を攻め，魏は前荊州刺史の**崔孝芬**を以て徐州行台と為し以て之を御がしむ。是より先，**孝芬**は**元叉**の黨に坐して**盧同**等と俱に除名せられ，將に徐州に赴か

んとするに及び，入りて**太后**に辭し，**太后**は**孝芬**に謂って曰く、
「我は卿と姻戚（太后は魏主の為に孝芬の女を納れて世婦となす）なり，奈何して頭を**元叉**の車中に内れ，『此の老嫗は曾（かなら）ず須く之を去るべし！』と稱すや」
孝芬は曰く、
「臣は國に厚恩を蒙り，實に斯の語無し。假令（たとい）之れ有りとも，誰か能く聞くを得ん！若し聞く者有れば，此れ**元叉**に於いて親密なること臣に過ぎること遠きなり矣。」
太后は意解け，悵然として愧じる色有り。**景俊**は泗水を堰きて以て彭城を灌せんと欲し，**孝芬**は都督の**李叔仁**等と之を撃ち，**景俊**は遁げ還る。(9-068p)
●［魏主は三度西討せんとし、北討す］三月，甲子（0-0+1=１日），**魏主**は詔して將に西討せんとし，中外は戒嚴す。會々秦の賊は西に走り，復た潼關を得，戊辰（4-0+1=５日），詔して駕を回して北討せんとす。其の實は皆な行かず。
●**葛榮**は久しく信都を圍み，魏は金紫光祿大夫の**源子邕**を以て北討大都督と為し以て之を救わしむ。

【北の混乱中、蕭衍は仏教傾斜】

■［蕭衍は初めて捨身す］初め，**上**は同泰寺を作り，又た大通門を開き以て之に對し，其の反語（同泰の反は大と為し、大通の反は同と為す。是れ反語相協うなり）を取りて相い協す。**上**は晨夕寺に幸し，皆な是の門を出入す。辛未（7-0+1=８日），**上**は寺に幸して捨身す。甲戌（10-0+1=１１日），宮に還り，大赦し，改元（大通）す。
●［齊州方面も叛乱の渦へ］魏の齊州の廣川（宋の武帝は廣川郡を僑置し冀州に属す。魏は齊州に属す。山東省濟南道長山県、現・浜州市鄒平市）の民の**劉鈞**は衆を聚めて反し，自ら大行台を署す。清河の民の**房須**は自ら大都督を署し，昌國城（東清河郡武城県、山東省東臨道武城県、現・徳州市武城県）に屯據す。
●夏，四月，魏將の**元斌**之討東郡を討つや，**趙顯德**を斬る。
●柔然［柔然の入貢を魏は警戒］己酉（45-29+1=１７日），柔然の**頭兵可汗**は遣使して魏に入貢し，且つ群賊を討たんと請う。魏人は其の反覆を畏れ，詔して盛暑なるを以て，且く後敕を俟たしむ。

●［楊椿は蕭寶寅の叛意を見抜く］魏の**蕭寶寅**之敗れる也，有司は處するに死刑を以てし，詔して免じて庶人と為す。雍州刺史の**楊椿**は疾有りて解かんことを求め，復た**寶寅**を以て都督雍、涇等四州諸軍事、征西將軍、雍州刺史、開府儀同三司、西討大都督と為し，關より以西は皆な節度を受けしむ。**椿**は鄉里（世々華陰に居る）に還り，其の子の**昱**は將に洛陽に適かんとし，**椿**は之に謂って曰く、
「當今雍州刺史は亦た**寶寅**に逾える者は無し，但だ其の上佐は，朝廷は應に心膂の重人を遣わすべし，何ぞ其の牒用に任ずるを得ん！此れ乃ち聖朝の百慮之一失也。且つ**寶寅**は刺史に藉（よ）りて榮と為さず，吾は其の州を得るを觀るに，喜悅すること特に甚しく，賞罰雲為に至るまで，常憲（一定のきまり）に依らず，恐らくは異心有らん。汝は今京師に赴き，當に吾が此意を以て二聖（魏主及び太后）に啟し，並せて宰輔に白し，更に長史、司馬、防城都督を遣わすべし，關中を安ぜんと欲すれば，正に三人を須つ耳。如し其の遣わさざれば，必ず深き憂いと成らん。」
昱は面のあたりに**魏主**及び**太后**に啟し，皆な聽かず。

■●［成景俊・蘭欽は魏を攻める］五月，丙寅（2+60-59+1=４日），**成景俊**は魏の臨潼（魏は臨潼郡を置き臨潼に治す、潼水に臨む、安徽省淮泗道靈壁県、現・宿州市靈璧県）、竹邑（漢の沛郡の竹県、魏は南濟陰郡治所、安徽省淮泗道宿県、現・

宿州市埇橋区、）を攻め，之を拔く。東宮直閤の**蘭欽**は魏の蕭城、厥固を攻め，之を拔き，**欽**は魏將の**曹龍牙**を斬る。

●六月，魏の都督の**李叔仁**は**劉鈞**を討ち，之を平らぐ。

●［劉獲、鄭辯は反して湛僧智につき、曹世表は討伐］秋，七月，魏の陳郡の民の**劉獲**、**鄭辯**は西華（漢の汝南郡に属す県、晉には潁川郡に属し、北魏では陳郡に属す。河南省開封道西華県、現・周口市西華県）に反し，改元して天授とし，**湛僧智**（時に魏の東豫州ょ囲む）と通謀し，魏は行東豫州刺史の譙國の**曹世表**を以て東南道行台と為し以て之を討たしめ，**源子恭**を**世表**に代わりて東豫州と為す。諸將は賊衆の強く，官軍の弱く，且つ皆な敗散之餘なるを以て，(9-069p) 敢えて戰わず，城を保ちて自ら固めんと欲す。**世表**は方に背腫を病み，輿にて出で，統軍の**是雲寶**を呼びて謂って曰く、

「**湛僧智**が敢えて深く入り寇を為す所以の者は，**獲**、**辯**が皆な州民之望にして，之が内應を為すを以て也。向に聞く、**獲**は兵を引いて**僧智**を迎えんと欲し，此を去ること八十里。今其の不意に出れば，一戰して破る可し，**獲**が破れれば，則ち**僧智**は自ら走らん矣。」

乃ち士馬を選びて**寶**に付け，暮に城を出て，曉に比(およ)びて而して至り，**獲**を擊ち，大いに之を破り，餘黨を窮討して悉く平らぐ。**僧智**は之を聞き，遁げ還る。**鄭辯**は**子恭**と親舊なり，亡げて**子恭**の所に匿れ，**世表**は將吏を集めて**子恭**を面責し，**辯**を收め，之を斬る。

●［元鑒は葛榮に降る］魏の相州刺史の樂安（安樂に作るべし）王の**鑒**は北道都督の**衍**と共に信都を救う。**鑒**は魏の多故を幸いとし，陰に異志有り，遂に鄴に據りて叛して，**葛榮**に降る。

●己丑（25+60-58+1=２８日），魏は大赦す。

●［道謙之に死を賜う］初め，侍御史の遼東の**高道穆**は使いを相州に奉ず。前刺史の**李世哲**は奢縱にして不法なり，**道穆**は之を案ず。**世哲**の弟は**神軌**は事を用い，**道穆**の兄の**謙之**の家奴は良を訴える（律に良を厭して賤と為すを禁ず、もと是れ良民なるに、厭して奴婢と為すをいう）。**神軌**は**謙之**を收めて廷尉に系(つな)ぐ。赦は將に出でんとし，**神軌**は**太后**に啟し先ず**謙之**に死を賜い，朝士は之を哀む。

■●［琅邪攻防戦］**彭群**、**王辯**は琅邪を圍むこと，夏（一本に春、魏書鹿悆傳も同じ）より秋に及び，魏の青州刺史の彭城王の**劭**は司馬の**鹿悆**を遣わし、南青州刺史の**胡平**は長史の**劉仁之**を遣わして兵を將いて**群**、**辯**を擊ち，是を破り，**群**は戰沒す。**劭**は，**勰**（彭城王勰は魏の賢王、高肇の讒りにあう）之子也。

●［魏は元鑒を殺し、葛榮を攻める］八月，魏は都督の**源之邕**，**李神軌**，**裴衍**を遣わして鄴を攻める。**子邕**は行きて湯陰（河南省河北道湯陰県、現・安陽市湯陰県）に及び，安樂王の**鑒**は弟の**斌之**を遣わして夜**子邕**の營を襲わしめ，克たず。**子邕**は勝ちに乘りて進みて鄴城を圍み，丁未（43-27+1=１７日），是を拔き，**鑒**を斬り，首を洛陽に傳え，改姓して拓跋氏とす。魏は因りて**子邕**、**裴衍**を遣わして**葛榮**を討たしむ。

●［莫折念生は殺され、蕭寶寅は尚書令復帰］九月，秦州の城民の**杜粲**は**莫折念生**を殺し闔門（閉門）は皆な盡き，**粲**は自ら州事を行う。南秦州の城民の**辛琛**も亦た自ら州事を行い，遣使して**蕭寶寅**に詣り降を請う。魏は復た**寶寅**を以て尚書令と為し，其の舊封を還す。

【義陽方面の梁魏攻防戦】

■●［梁は廣陵城を降伏させる］譙州刺史の**湛僧智**は魏の東豫州刺史の**元慶和**を廣陵（これは新息県、河南省汝陽道息県、現・信陽市息県）に圍み，魏の將軍の**元顯伯**は之を救い，司州刺史の**夏侯夔**は武陽（武陽関は義陽湖の三関の一つ）より兵を引いて**僧智**を助ける。冬，十月，**夔**は城下に至り，**慶和**は城を舉げて降る。**夔**は以て**僧智**に讓り，**僧智**は曰く、

「**慶和**は公に降らんと欲し，**僧智**に降るを欲せず，今往けば，必ず其の意に乖(そむ)かん。且つ**僧智**の將いる所は應募烏合之人なり，御するに法を以てす可からず。公は軍を持すること素より嚴なり，必ず侵暴する無く，降を受け納附するは，深く其の宜しきを得ん。」

夔は乃ち城に登り，魏の幟を拔き，梁の幟を建てる。**慶和**は兵を束ね而して出で，(9-070p) 吏民は安堵し，男女四萬餘口を獲る。

■［湛僧智は君子なり］臣光曰く、

「**湛僧智**は君子と謂う可き矣！其の時を積みて攻戰之勞を忘れ，以て一朝新たに至る之將に授ける，己之短を知り，人之長を掩わず，功成りて取らず，以て國事を濟す，忠にして且つ私無し，君子と謂う可き矣！」

●■［義陽の北道を梁は占領］**元顥伯**は宵遁げ，諸軍は之を追い，斬獲は萬を計える。詔して**僧智**を以て東豫州（この年正月より包囲）刺史を領し，廣陵に鎮せしむ。**夔**は軍を引きて安陽（東豫州汝南郡の県、河南省汝陽道正陽県西南、現・駐馬店市正陽県）に屯し，別將を遣わして楚城（河南省汝陽道信陽県東北に梁は楚州を置く、現・信陽市周辺か）を屠り，是に由りて義陽（現・信陽市周辺）の北道は遂に魏と絶つ。

■●［尋陽太守の韋放はよく防ぐ］領軍の**曹仲宗**、東宮直閤の**陳慶之**は魏の渦陽を攻め，尋陽太守の**韋放**に詔して兵を將いて之に會せしむ。魏の散騎常侍の**費穆**は兵を引いて奄至し，**放**は壘を營んで未だ立たず，麾下は止だ二百餘人有り，**放**は冑を免ぎて馬を下り，胡床に據りて處分し，士は皆な殊死して戰い，一にして百に當たらざる莫く，魏兵は遂に退く。**放**は，**睿**之子也。

●■［陳慶之のみ撤退反対］魏は又た將軍の**元昭**等衆五萬を遣わして渦陽を救わしめ，前軍は駝澗（肥河口より淮に泝りて西すれば駝澗灘）に至り，渦陽を去ること四十里。**陳慶之**は逆え戰わんと欲し，**韋放**は以わく、

「魏之前鋒は必ず皆な輕鋭ならん，擊つ勿かれ，其の來たり至るを待つに如かず。」

慶之は曰く、

「魏兵は遠來にして疲れ倦み，我を去ること既に遠し，必ず疑わざれ，其の未だ集まらざるに及び，須く其の氣を挫くべし。諸君若し疑えば，**慶之**は請う獨り之を取らん。」

是に於いて麾下の二百騎を帥いて進擊し，之を破り，魏人は驚駭す。**慶之**は乃ち還り，諸將と營を連ねて而して進み，渦陽城を背にして魏軍と相い持つ。春より冬に至り，數十百戰し，將士は疲弊す。魏人が壘を軍後に築かんと欲するを聞き，**曹仲宗**等は腹背に敵を受けるを恐れ，軍を引きて還らんと議す。**慶之**は節に軍門に杖りて曰く、

「共に來たりて此に至り，涉歴すること一歳，糜費は極めて多し。今諸君は皆な鬥心無し，唯だ退縮を謀る，豈に是れ功名を立てんと欲するや，直に聚り抄暴を為す耳！吾は聞く兵を死地に置き，乃ち求生を求める可しと。虜の大いに合するを須ち，然る後に與に戰わん。審(も)し師を班(かえ)さんと欲すれば，**慶之**は別に密敕有り，今日犯す者は，當に敕に依りて之を行うべし！」

仲宗等は乃ち止む。

●［陳慶之は魏の十三城を落す］魏人は十三城を作り，梁軍を控制せんと欲す。**慶之**は枚を銜んで夜出で，其の四城を陷とし，渦陽城主の**王緯**は降を乞う。**韋放**は降者三十餘人を簡遣し分けて魏の諸營に報ぜしめ，**陳慶之**は其の俘馘を陳じ，鼓噪して之に隨い，魏の九城は皆な潰え，之を追擊し，俘斬は略ぼ盡き，屍は渦水に咽がり，降る所の城中男女は三萬餘口なり。

【齊王族の蕭寶寅は魏に反して即位】

●［蕭寶寅は異志を懐く］蕭寶寅之涇州に敗れる也，或は之に勸める、
「罪を洛陽に歸せよ」
と，或は曰く、
「關中に留まりて功を立て自ら效さんには若かず。」
行台都令史（尚書に都令史ありて行台にも置く）の河間の馮景は曰く、
「兵を擁して還らざれば，(9-071p) 此の罪は將に大ならんとす。」
寶寅は從わず，自ら念うに、
「師を出して累年，糜費は貲(はか)られず，一旦覆敗し，內に自ら安ぜず」
魏朝も亦た之を疑う。
●［酈道元は元悅を彈劾］中尉の酈道元は，素より嚴猛に名あり。司州牧の汝南王の悅の嬖人の丘念は，權を弄して縱恣なり，道元は念を收めて獄に付す。悅は之を胡太后に請い，太后は敕して之を赦し，道元は之を殺し，並せて以て悅を劾（彈劾）す。
●［寶寅は決意を固める］時に寶寅の反狀は已に露われ，悅は乃ち奏して道元を以て關右大使と為す。寶寅は之を聞き，己を取ると為すと謂(おも)い，甚だ懼れ，長安の輕薄なる子弟も復た勸めて兵を擧げ使む。寶寅は以て河東の柳楷に問い，楷は曰く、
「大王は，齊の明帝の子なり，天下の屬する所，今日之擧は，實に人望に允(あた)れり。且つ謠言に『鸞（齊の明帝の諱）は十子を生み九子は殿（卵壞れる）し，一子は殿せず關中の亂(おさま)（周秦以前は亂を以て治となす）らん。』亂者治也，大王は當に關中を治めるに，何の疑う所あらん！」
道元は陰盤驛（陝西省關中道臨潼県、現・西安市臨潼区）に至り，寶寅は其の將の郭子恢を遣わして攻めて之を殺し，其の屍を收殯して，表して白賊（秦人は鮮卑を白虜と為す。苻秦の乱より鮮卑の種は因りて關中に留まる者有り。この時相挺して盗を為す、これを白賊という。鮮卑には色が白い部族もありて白部鮮卑ともいう）の害する所と言う。又た上表して自ら理し，楊椿父子の譖する所と為ると稱す。
●［蘇湛は蕭寶寅の叛乱に不同意］寶寅の行台郎中の武功の蘇湛は，病に臥して家に在り，寶寅は湛の從母の弟の開府屬（魏は寶寅を開府とし、掾屬有り）の天水の姜儉をして湛を說か令めて曰く、
「元略（梁より魏に還りて大いに寵任される、故に寶寅は託して以て言を為す）は蕭衍の旨を受け，剿除せられんと欲す。道元之來たるや，事は測る可からず。吾は坐して死亡を受ける能わず，今須く身の計を為すべし，復た魏の臣と作らず矣。死生榮辱は，卿と之を共にせん。」
湛は之を聞き，聲を擧げて大哭し。儉は遽に之を止めて，曰く、
「何ぞ便ち爾るを得ん！」
湛は曰く、
「我が百口は今屠滅せんとす，雲何ぞ哭せざらんや！」
哭すること數十聲，徐(おもむろ)に儉に謂って曰く、
「我が為に齊王に白せ，王は本は窮鳥を以て入に投じ，朝廷が王に羽翼を假すを賴り，榮寵は此に至る。屬(このごろ)國步（国家的命運、国土）は多虞（災難多し）なり，忠を竭くし德に報いる能わず，乃ち人の間隙に乘らんと欲し，行路の無識之語に信惑し，羸敗之兵を以て關を守り（寶寅が潼關を險を守り關中に割拠せんとす）鼎を問わん（天位を窺わんとする）と欲す。今魏の德は衰えると雖も，天命は未だ改まらず，且つ王之恩義は未だ民に洽かず，但だ其の敗るるを見，未だ成る有るを見ず，蘇湛は百口を以て王の為に族滅せらるる能わず。」
寶寅は復た謂って曰わ使む、

「我は死を救うに爾らざるを得ず，先ず相い白さざる所以の者は，吾が計を沮まんことを恐れる耳。」
湛は曰く、
「凡そ大事を謀るには，當に天下の奇才を得て之と與に從事すべし，今但だ長安の博徒と之を謀る，此れ成るの理有るや不や？**湛**は恐れる、荊棘は必ず齋閣に生ぜんことを，願わくは骸骨を賜わりて鄉里に歸らんことを，庶わくは病に死し，下先人を見るを得ん。」
寶寅は素より**湛**を重んじ，且つ其の己が用を為さざるを知り，武功に還るを聽す。
●［蕭寶寅は即位礼するも敗退］甲寅（50-26+1=２４日），(9-072p) **寶寅**は**齊帝**を自稱し，改元して隆緒とし，其の所部に赦し，百官を置（署×）く。都督の長史（寶寅は雍州涇州等四州を都督し、西討大都督となり、遐を府の長史と為す）の**毛遐**は，**鴻賓**之兄也，**鴻賓**と與に氐、羌を帥いて兵を馬祗柵に起こし以て**寶寅**を拒む。**寶寅**は大將軍の**盧祖遷**を遣わして之を擊たしめ，**遐**の殺す所と為す。**寶寅**は方に南郊に祀し，即位禮を行いて未だ畢らず，敗を聞き，色變じ，部伍を整える暇あらず，狼狽し而して歸る。**姜儉**を以て尚書左丞と為し，委ねるに心腹を以てす。文安（直隷省津海道文安県、現・廊坊市文安県）の**周惠達**は**寶寅**の使いと為り，洛陽に在り，有司は之を收めんと欲し，**惠達**は逃げて長安に歸る。**寶寅**は**惠達**を以て光祿勳と為す。
●［蕭贊は関与せず許される］丹陽王の**蕭贊**は**寶寅**の反するを聞き，懼れ而して出で走り，白鹿山に趣き，河橋に至り，人の獲る所と為り，**魏主**は其の謀に預らざるを知り，釋し而して之を尉める。行台郎の**封偉伯**等は關中の豪傑と兵を舉げて**寶寅**を誅さんと謀り，事は洩れ而して死す。
●魏は尚書僕射の**長孫稚**を以て行台と為し以て**寶寅**を討たしむ。
■［蕭寶寅に東西呼応］正平（魏の世祖は太平郡を河東の聞喜險に於き、孝文帝太和 18 年に改めて正平郡とす。雍州に属し、聞喜・曲沃二県を領す）の民の**薛鳳賢**は反し，宗人の**薛修義**も亦た衆を河東に聚め，分けて鹽池に據り，攻めて蒲板を圍み，東西連結して以て**寶寅**に應じる。都督の**宗正珍孫**に詔してして之を討たしむ。
■十一月，丁卯（3+60-53+1=１１日），護軍の**蕭淵藻**を以て北討都督と為し，渦陽に鎮す。戊辰（4+60-53+1=１２日），渦陽（魏は譙州を置き、梁は改めて西徐州とす、安徽省淮泗道蒙城県、現・亳州市蒙城県）を以て西徐州を置（続は為）く。

●［葛榮は信都をおとす］**葛榮**は魏の信都を圍み，春より冬に及び，冀州刺史の**元孚**は將士を帥勵し，晝夜拒み守り，糧儲は既に竭き，外に救援無し，己丑（25+60-53+1=３３日?），城は陷る。**榮**は**孚**を執り，居民を逐出し，凍死者は什に六七なり。**孚**の兄の**祐**は防城都督と為り，**榮**は大いに將士を集め，其の生死を議す。**孚**の兄弟は各々自ら咎を引き，爭いて相い為に死す，都督の**潘紹**等數百人は，皆な叩頭して法に就きて以て使君を活かさんと請う。**榮**は曰く、
「此れ皆な魏之忠臣義士なり。」
是に於いて同禁者五百人は皆な免かるるを得たり。
●［源子邕と裴衍は葛榮と戦い敗死］魏は**源子邕**を以て冀州刺史と為し，兵を將いて**榮**を討たしむ。**裴衍**は表して同行するを請い，詔して之を許す。**子邕**は上言す、
「**衍**が行けば，臣は請う留まらんと。臣行けば，請う**衍**を留めんと。若し逼りて同行せしめれば，敗は旦夕に在り。」
許さず，十二月，戊申（44-25+1=２０日），行きて陽平の東北漳水の曲に至り，**榮**は衆十萬を帥いて之を擊つ，**子邕**、**衍**は俱に敗死す。
●［李神は葛榮を退ける］相州の吏民は冀州の已に陷ち，**子邕**等は敗れるを聞き，人は自ら保たず。相州

刺史の恆農（魏の顕祖の諱は弘。故に弘農を改めて恆農とする）の**李神**は志氣自若として，將士を撫勉し，大小力を致し，**葛榮**は鋭を盡くして之を攻め，卒に克つ能わず。
●秦州の民の**駱超**は**杜粲**（胡三省曰く、杜粲は莫折念生を殺し、駱超はまた杜粲を殺す。群盜互いに相屠滅亡し、以て一時の利を邀む、怪しむに足らざるなり）を殺し，降を魏に請う。

令和 4 年 12 月 14 日　　翻訳開始　　7729 文字
令和 4 年 12 月 23 日　　翻訳終了　　16997 文字